

～地域での支え合いの仕組みづくり

(生活支援体制整備事業) を継続しています～

私たちが生活支援コーディネーターです!

生活支援コーディネーター 地域通信 第5号

令和6年6月発行



社協・川べ



包括・岸田



包括・平山



■生活支援体制整備事業とは■

「生活支援コーディネーターの配置」と、「協議体の開催 (=なじよすっぺ会)」を通じて、高齢になっても住み慣れた地域で自分らしい生活を送れるように「暮らしやすい地域」をみんなで考えて作っていくことです。

■生活支援コーディネーターは、「支え合いの輪」をつくるつなぎ役です!■

たとえば、「〇〇があったら」「〇〇で困っている」「〇〇と××で協力できたら」など、地域での生きがいや役割を持ち、自分らしい生活を送ることができるようにお手伝いをするのが、生活支援コーディネーターの役割です。

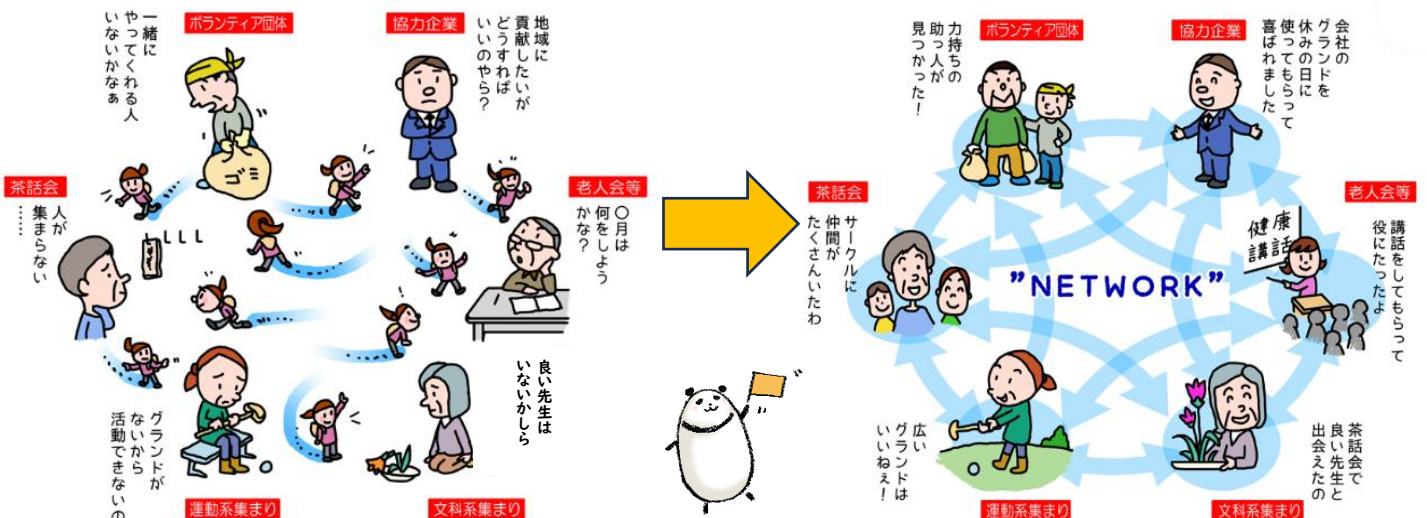


■協議体とは=支え合いの輪をつくる話し合いの場■

地域住民、自治会、民生児童委員、民間企業、行政、地域包括支援センター、社会福祉協議会など様々な人たちが集まり、地域で生活をしていく上で気になることや問題・課題をどう解決に近づけていけばよいのか話し合いを行います。

つまり、地域のみなさんの間をいっぱい歩いているのが生活支援コーディネーターです!

いっぱい歩くうちに道ができて



支え合いの「輪」の出来上がり!

山下第一小学校区

地域住民×民生児童委員×包括×社協 八手庭地区「やつで茶話会」

地域住民、自治会、民生児童委員、民間企業、行政、地域包括支援センター、社会福祉協議会など様々な人たちが集まり、地域で生活をしていく上で気になることや問題・課題をどう解決に近づけていけばよいのかを話し合う場である「山下第一小学校区なじよすっぺ会（福祉情報共有会）」で、「みんなが集まる活動があればいいな」という声があがりました。新型コロナウイルス感染症が流行してから、各地域にある集会所も以前よりは使用されなくなってしまったそうです。

そんな声を受けて、八手庭農村集落多目的センターを借りて「やつで茶話会」が誕生しました。

やつで茶話会では何をやってる？：お茶を飲みながら、お互いの近況報告やフレイル予防についてなどをみんなで話しながら、いつまでも元気で過ごせるようにと盛り上がっていました。

第一回目は、準備運動も兼ねた「ロコモ体操」を行い、みんなで身体を動かした後、「スカットボール」にチャレンジしました。

女性はお茶の準備、男性はテーブル・椅子の準備と自然にテキパキと！
↓↓↓

運動後のお茶は美味しいね

スカットボールだけでもやもやすっこだ



「いつまでも元気で、住み慣れた地域で暮らし続けるため、互いの支え合いの輪」
地域の高齢者は外出の機会が減少してきている現状を踏まえ、地域住民がサロンで顔の見える関係性を築いています。お互い誘い合いながら参加し、見守り合って、スポーツも交えながら楽しみ、フレイル予防にも繋がっています。